

平成29年度スクールプラン

【改訂版】 (様式)

平成29年度学校教育目標	豊かな心とたくましく生きる力をもった子どもを育成する	北九州市立	槻田	小学校
--------------	----------------------------	-------	----	-----

本年度の重点		4～8月	第1期 中間評価	～12月	第2期 中間評価	年度末評価
達成目標(本年度のゴール)	ゴールに向けた重点的取組	取組状況	○成果 ◆課題と改善点	取組状況	○成果 ◆課題と改善点	達成目標の評価と次年度の方向性
関学 する 向 取 組	【授業改善①】 質問紙(53)「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。」及び(54)「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」で肯定的回答が90%以上になる。 【授業改善②】 質問紙(49)「授業では、学級の友達とで話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」で肯定的回答が85%以上になる。 質問紙(58)「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いてみることは難しいと思いますか。」で、肯定的回答が80%以上になる。 【補充学習】 ◇<児童質問紙(33)>「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいませんか」について、肯定的な回答をした児童の割合[80%以上]	○学期末、「わかる授業づくり」5つのポイントに基づいた授業づくりを行い、その振り返りを全職員で行った。 ○「槻田小学習のきまり」や黙々掃除の指導を徹底するとともに、児童自身も振り返りを行うようにさせる。(月1回) ○1単位時間の中に必ず「話し合う活動」と「書く活動」を取り入れることを全教科で取り組む。学期に1回全職員でポイントことの振り返りを行う。 ○児童が自分の意見を言うことができること、また、それを受容することができる学級の雰囲気や醸成し、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。	○学期末、「わかる授業づくり」5つのポイントに基づいた授業づくりを行い、その振り返りを全職員で行った。 ○「槻田小学習のきまり」の振り返りを月末行い、学習規律を徹底するようとした。保護者にもコメントをもらうなどした。 ○重点単元について少人数指導を行い、きめ細やかな指導を行った。	○職員へのアンケートで「5つのポイントを意識して、日々の授業改善に取り組んだ」について、肯定的な回答をした教員の割合が90%以上となった。 ◆学習規律については、79%の教師から肯定的な回答を得られた。 ◆1学期末反省で、「書く活動ができていない」が22%、「話し合う活動ができていない」が37%という回答結果だった。時間配分を考える計画をしていくことが必要。	○主題研修で「わかる授業づくり」5つのポイントに基づく研究授業を行い、職員研修を行った。 ○主題研修では、「話し合い活動の充実」を目指して「書く活動」により考えをつくる「話し合い方のモデル」を示す「学習ツールの活用」などを手立てとして各学年の授業を公開し、狭義した。 ○2学期末アンケートを行い、児童・教職員対象の学習アンケートを行ない、その振り返りを全職員で行った。	【授業改善①】 ○質問紙53・54で肯定的な回答をした児童の割合が増加した。 ◆目標値に到達できていない。 ◆一人一人が「めあて」をもって学習に取り組み自らの学びを自分の言葉で振り返り「まとめ」を書くことができるよう、更に指導の徹底を図る。 【授業改善②】 ○質問紙49で肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○授業の中で、積極的に「書く活動」を取り入れることで、児童が自分の考えを表現する方法を身に付けた。 ◆話し合いの内容を深めるために、発表ボードを使って書いたり説明したりする習慣を付ける必要がある。
	【家庭学習】 質問紙(21)「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」で肯定的回答が80%以上になる。 質問紙(14)「学校の授業以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で肯定的回答が80%以上になる。	○「家庭教育チャレンジハンドブック」などを活用し、計画的に家庭学習に取り組むことができるように指導する。(月一回の点検を徹底する。) 模範的な自学ノートの紹介を行う。(月1回の更新)	○チャレンジハンドブックなどを活用して、家庭学習の指導に取り組み、学習習慣の定着を図った。	◆家庭学習についてのアンケートでは、肯定的回答が60%にとどまった。チャレンジハンドブックによる自己評価だけでなく、例示をしたり、ノートの掲示をしたりといった具体的な指導が必要。	○自学ノートやハンドブックの回収を月に一度行い、担任がチェックした。また、保護者にも宿題の確認をしてもらうよう呼びかけた。 ○2学期末アンケートを行い、児童・教職員対象の学習アンケートを行ない、その振り返りを全職員で行った。	○家庭の状況により個人差はあるものの家庭学習を確実に提出する児童が増えた。 ◆質問(21)について教職員の肯定的回答が、59%にとどまった。サポートシステムを家庭学習で活用する方法を検討する必要がある。 ◆ノートの掲示場所を決め、学年毎の掲示を行う必要がある。
関体 する 向 取 組	【授業改善】 ◇児童質問紙(18)「普段の体育の授業では、授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」について、肯定的な回答をした児童の割合[85%以上]	①児童自身に適切な自己目標の設定と課題解決の方法選択(自立)をさせる授業づくりについて学力・体力向上推進教員を活用した校内研修を行う。また、運動場での体育授業でも、課題を明確にした学習や児童の話し合い活動を活発にさせるよう環境整備を行う。 ②内容に応じて個人・グループの実践カードを配布し、上達の手帳を明らかにして挑戦させ、振り返り評価を行うことで自他の向上をフィードバックし、達成感を次の意欲につなげるようにする。	○45分間の体育授業の時間確保を呼びかけた。 ○めあてを明確にした授業ができるよう呼びかけをした。 ○まるわかりハンドブックを活用した校内研修を行った。	◆45分間の授業時間の確保とめあての明確化を意識している学級が増えてきたが、徹底していると答えたのは5割程度。まだ十分確保できていない学級もある。 ◆本校のカリキュラムに合わせて適宜ミニ校内研修を実施する必要がある。	○1学期に引き続き、授業の始まりと終わりを必ず守るようにした。 ○授業の導入で、必ずめあての確認を行い、ふり返りを発表するようにした。 ○陸上記録会の前に、「学校応援団」の講師を招いて6年生を対象に「走り方教室」を行った。	【授業改善】 ○児童質問紙18について、肯定的な回答をした児童の割合が増えた。 ○「走り方教室」のふり返りでは、「手の振り方や蹴り方が分かった」など肯定的な感想が児童から聞かれた。 ◆目標値に到達できていないので45分間の授業時間の確保とめあての明確化を意識した授業の徹底を図る
	【運動習慣】 ◇一校一取り組みとして年間を通して、計画的・継続的に体力向上の取り組みを行う。	運動委員会を中心に、新体力テスト、長縄・短縄、マラソン、ボールゲームなど、縦割りグループでの運動週間を年間配置する。	○校内研修を行い、新体力テストを適切に全学年・全種目実施した。	○全学年・全種目に取り組むことで各学年の課題が分かり、2学期の実践の参考になった。	○たて割り活動でドッジボール大会や縄跳び運動への取り組みで体力アップを図った。	○縄跳びカードで、上達のしるしのシールを貼ってもらうことを通して、技の上達や長く飛べるようになったことを実感できた児童が増えた。また、休み時間の縄跳びでは、上級生が下級生に教える姿も多く見られた。
関心 する 育 取 組	【授業改善①(生活・総合・道徳・特別活動)】 ◇<児童質問紙(34)>「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答をした児童の割合[90%以上] ◇<児童質問紙(35)>「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」(80%以上)	○道徳の時間に「郷土愛」に関する教材に重点的に取り組む。2学期の授業参観で、保護者や地域に公開して意識を高め、広げていくようにする。 ○学校行事・生活科や総合的な学習の時間において、地域活動への参加や、地域人材マップを作成して、それを活用した授業づくりを積極的に進める。 ○小中連携教員を活用して、あいさつ運動や小中一貫した規範意識の醸成に努める。	○毎週道徳の授業時間を確保するように呼びかけた。また、槻田川の生き物コーナーを下足室前に設置し、地域の自然環境に興味をもたせるようにした。 ○夏季休業時間中に校内研修を行い、道徳の教科化へ向けた本校のカリキュラム作りを行うことを共通理解した。	○各学年で教材教具などの見直しを行い、実践することができた。 ◆「郷土愛」に関する教材を作成し、計画的に実践することが必要である。総合的な学習や生活科のカリキュラムの見直しが必要。 ○槻田中学校区でふやそう笑顔ミーティングを行い、あいさつ運動の標語を決めた。 ○中学年児童と保護者対象の規範授業で、生活習慣や規範意識とゲームについて肯定的な感想がみられた。	○地域の人や施設への親近感や感謝を記したふり返りカードが多く見られた。 ○挨拶で対象された学級を中心に、自分から挨拶する児童が増えた。 ◆学級や個人による差を解消するために、職員が進んであいさつに取り組む必要があることを全職員で確認した。	【授業改善①(生活・総合・道徳・特別活動)】 ○児童質問紙34で、肯定的な回答をした児童の割合が4年生で達成目標に到達した。 ○児童質問紙35で、肯定的な回答をした児童の割合が5年生で達成目標に到達した。 ○地域の人や施設への親近感や感謝を記したふり返りカードが多く見られた。 ○挨拶で対象された学級を中心に、自分から挨拶する児童が増えた。 ◆学級や個人による差を解消するために、職員が進んであいさつに取り組む必要があることを全職員で確認した。 ◆道徳の教科化に向けて「地域」の一員としての自覚を高める学習を次年度カリキュラムに位置付ける。
	【授業改善②(道徳・保健)】 ◇<児童質問紙(12)>「普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。(※60分未満の割合)」について、肯定的な回答をした児童の割合[85%以上] ◇<児童質問紙(2)>「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか?」について、肯定的な回答をした児童の割合[85%以上]	○「北九州子どもつながりプログラム」を系統的に行うために年間計画に位置付け、生活習慣の改善に取り組む。生活実態調査やセルフエスティーム調査を行い、実態に合わせて学級経営の軸とする。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を改善もしくは定着するために、「保健だより」、「食育だより」を通して、食事・運動・睡眠などの生活習慣の改善・徹底を図る。	○各学年で年間計画に則って対人スキルアッププログラムに取り組んだ。 ○生活実態調査やセルフエスティーム調査を行い、実態に合わせて学級経営を行った。 ○特別支援学校児童や特別支援学級間の交流を行った。 ○毎月の食育資料や食育推進事業(親子クッキング)を通して、給食と関連付けした情報の発信に取り組んだ。また、「保健だより」を通して生活リズムの大切さについて啓発を行った。	○生活習慣の乱れが気になる児童の家庭に担任がこまめに連絡をとり、遅刻や欠席が少なくなっている。 ◆目に見えた生活習慣の改善・徹底は、難しいが、課題を抱えた児童の家庭に継続した働きかけが必要。	○課題を抱えた児童の家に電話や訪問などで、児童支援加配・教務主任・養護教諭・担任などが継続・連携して働きかけを行った。 ○1学期に引き続き、年間計画に従って対人スキルアッププログラムに取り組んだ。	【授業改善②(道徳・保健)】 ○児童質問紙12で肯定的な回答をした児童の割合が増えた。 ○児童質問紙2で、肯定的な回答をした児童の割合が増加した。 ◆今後も啓発活動を毛属していく必要がある。
学校 組織 と 研 修	※達成目標を以下の教員の学校自己評価の質問内容に対する回答をした割合とする。 【授業力向上】 ◇<学校アンケート>「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」について、肯定的な回答をした教員の割合[90%以上] ◇<学校アンケート>「授業改善評価シートを活用した」について、肯定的な回答をした教員の割合[85%以上] ◇<学校アンケート>「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」について、肯定的な回答をした教員の割合[85%以上]	○学力向上推進教員のモデル授業を基に、全職員でワークショップ型の研修を行い、自らの授業を振り返ることで、授業力の向上を図る。(学期1回) ○公開授業については、全学級が行う。近接学年担任を対象にB研を踏まえて、全教職員対象のA研を行う。	○学力向上推進教員のモデル授業を基に、全職員でワークショップ型の研修を行った。 ○全職員を対象とした提案授業を行い、「書く活動」「話し合う活動」を手立てとした授業づくりについて全職員で確認した。	○夏休みの間に指導案検討会を行い、授業づくりについて実践的な研修を行うことができた。 ◆学力調査の結果を生かす具体的方策について研修が必要。	○学力向上研修を行い、全国学調で本校児童が苦手とする問題を全職員で解き、「授業アイデア例」(国立教育政策研究所)を使用して職員研修を行った。また、代表授業を通して授業づくりについて研修を行った。 ○45分間の授業時間をどう使うかについて、学力向上推進教員の萩原先生のモデル授業を参観し、研修を行った。 ○道徳の教科化や新指導要領などについて計画的に研修を進めた。	※達成目標を以下の教員の学校自己評価の質問内容に対する回答をした割合とする。 【授業力向上】 ◇<学校アンケート>「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」について、肯定的な回答をした教員の割合は、96%であった。 ◇<学校アンケート>「授業改善評価シートを活用した」について、肯定的な回答をした教員の割合[85%以上]42%であった。積極的な活用に向けて研修が必要である。 ◇「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」については、主題研修を中心に取り組むを行った。